



# 2019年度 決算

(2019年4月～2020年3月)

2020年5月11日

塩野義製薬株式会社  
代表取締役社長 手代木 功



## 2019年度 事業への影響

- サプライチェーン
  - シオノギ製販品の原料等の調達、生産、在庫には影響なく、安定供給に支障なし
- 情報提供活動
  - 医師や医療機関のニーズに応じた活動、e-detailの活用
  - 社会の混乱と新常态に基づく医療習慣変更によるインフルエンザファミリーの売上への影響
- 研究開発活動
  - 欧米中心に治験の症例集積に遅延あり

## 2020年度 ビジネスオペレーション

### 新中期経営計画\*初年度の非常事態対応を生産性向上のための機会ととらえ、成長基盤の強化を推進

- 流行の長期化を見据えたサプライチェーンマネジメントにより、安定供給を徹底
- ストリーム・アイのツールやe-detailによる医師のアンメットニーズの把握と情報提供の効率化
- 症例数の国ごとの配分の見直し、バーチャル臨床試験の検討
- テレワーク期間を活用した“捨てる業務”の選別と、マネジャーの管理・育成力を強化

# 新型コロナウイルス感染症に関する取り組み



## 治療薬の創製

- 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターとの共同研究の中で、**新型コロナウイルス株を使用した創薬研究を開始**
- *in vitro*試験にて、新型コロナウイルス株に対する有望な化合物群を選出
- **2020年度内の臨床試験開始**を目指して創薬を加速

## 予防ワクチンの開発

- グループ会社であるUMNファーマの持つBEVS\*を活用し、国立感染症研究所、九州大学と協働し、シオノギ主導で**組換えタンパクワクチンの開発に着手**
- 創薬とともに最優先プロジェクトとして、**2020年内の臨床試験開始**を目指して取り組みを加速
- 1,000万人規模に供給可能な生産体制の構築を目指す

## 検査キットの提供

- **IgG/IgM抗体検査キット製品の導入**に向けマイクロブラッドサイエンス社と業務提携
- 国内での実用化に向けて性能試験に参画し、臨床データを収集中
- 臨床での有用性検討に必要なエビデンスの構築に向けて、臨床研究を計画中

**新型コロナウイルス感染症に対するトータルケアを実現し、  
パンデミックの早期終息による社会の安心・安全の回復に貢献**

# 本日のアジェンダ

1. 2019年度 決算の概要 (P.5-13)
2. 2019年度の取り組みと結果 (P.14-17)
3. 2020年度 業績予想 (P.18-26)
4. 株主還元 (P.27, 28)

# 1. 2019年度 決算の概要

# 決算ハイライト①

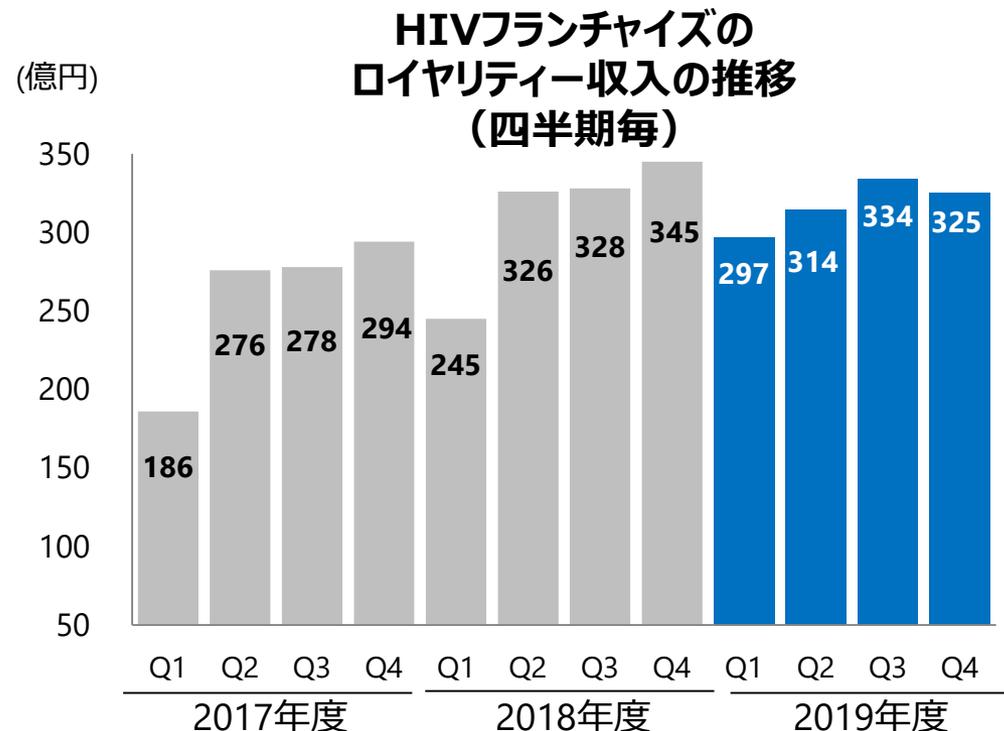
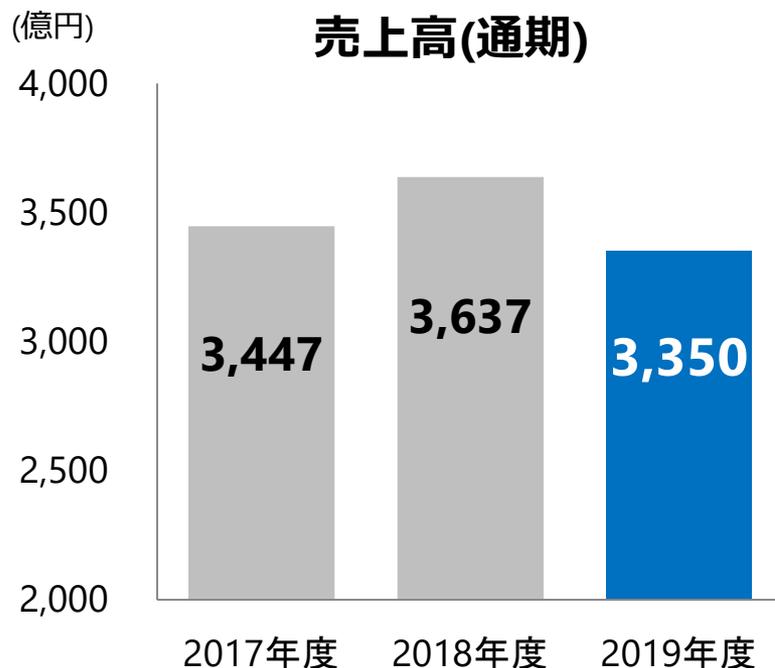
日本基準 (JGAAP)



◆ 売上高：**3,350億円** (対前年  $\Delta$ 7.9%)

HIVフランチャイズに関する

◆ ロイヤリティー収入：**1,271億円** (対前年 +2.1%)



# 決算ハイライト②

JGAAP



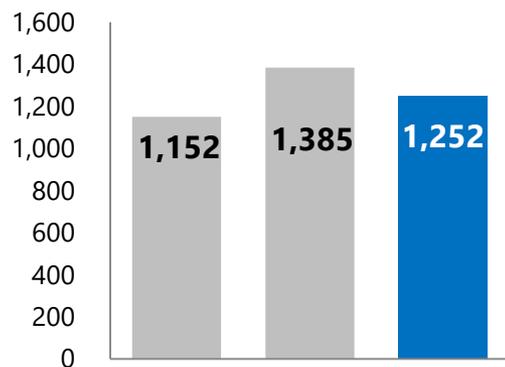
◆ 営業利益： **1,252億円** (対前年  $\Delta$ 9.6%)

◆ 経常利益： **1,518億円** (対前年  $\Delta$ 8.9%)

◆ 親会社株主に帰属する  
当期純利益： **1,213億円** (対前年  $\Delta$ 8.6%)

### 営業利益 (通期)

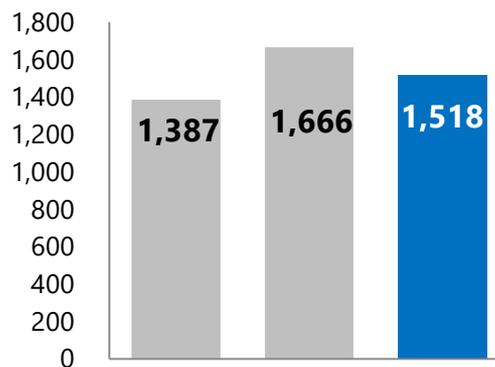
(億円)



2017年度 2018年度 2019年度

### 経常利益 (通期)

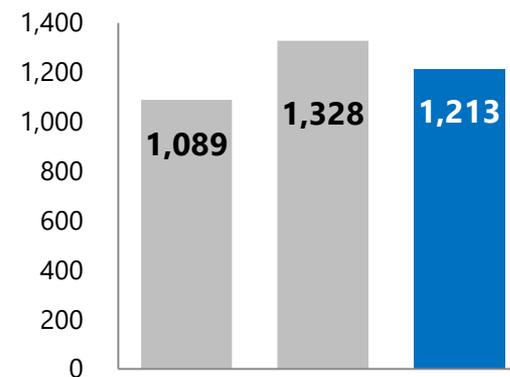
(億円)



2017年度 2018年度 2019年度

### 親会社株主に帰属する 当期純利益 (通期)

(億円)



2017年度 2018年度 2019年度

# 連結経営成績

JGAAP



(単位：億円)

	2019年度				2018年度		対前年	
	当初予想 (5/9)	修正予想 (2/3)	実績	対修正予想 達成率(%)	実績	UP率 (%)	増減額	
売上高	3,655	3,550	3,350	94.4	3,637	△7.9	△288	
営業利益	1,470	1,415	1,252	88.5	1,385	△9.6	△133	
経常利益	1,705	1,670	1,518	90.9	1,666	△8.9	△148	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,330	1,330	1,213	91.2	1,328	△8.6	△115	

- インフルエンザファミリー\*の国内売上減少の影響が大きく、計画を大幅に未達
- インフルエンザファミリーを除くと、売上高は修正予想通りに着地\*\*

為替レート (期中平均)	2019年度前提 (5/9)	2019年度前提 (10/30修正)	2019年度 実績
ドル	110.0円	107.0円	108.72円
ポンド	145.0円	133.0円	138.15円
ユーロ	130.0円	120.0円	120.82円

# 損益計算書

JGAAP



(単位：億円)

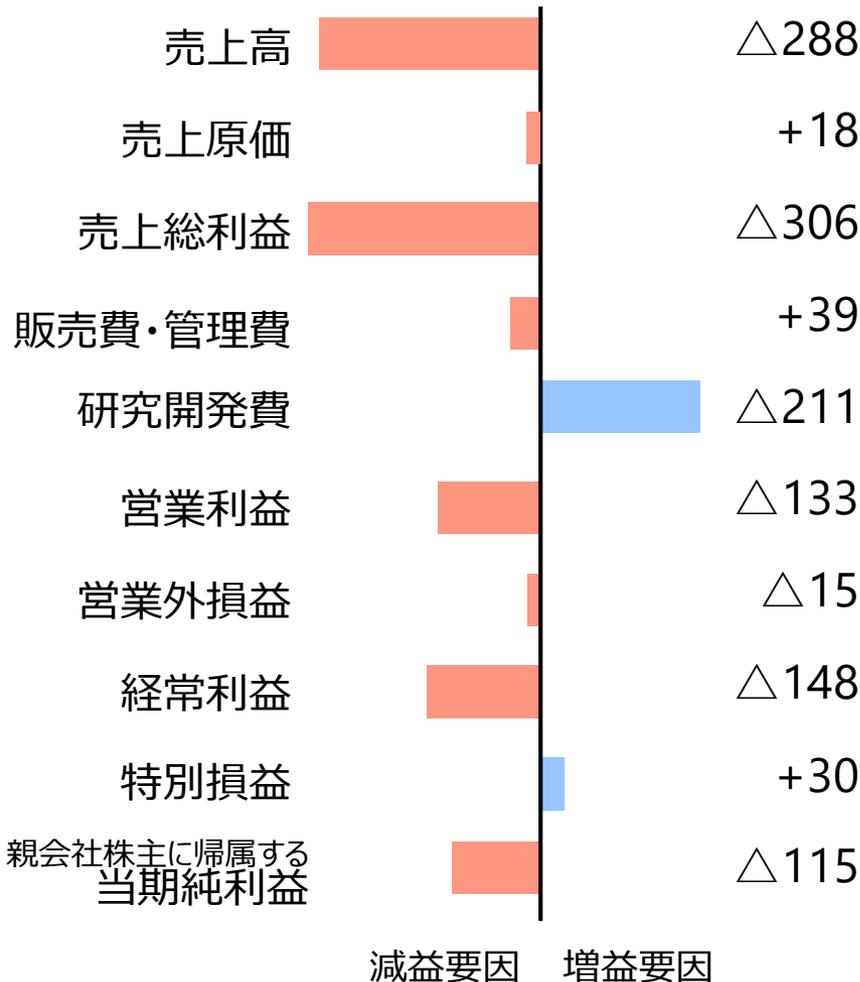
	2019年度				2018年度		対前年	
	当初予想 (5/9)	修正予想 (2/3)	通期実績	対修正予想 達成率(%)	通期実績	UP率 (%)	増減額	
売上高	3,655 14.6	<b>3,550</b> 16.2	<b>3,350</b> 16.9	<b>94.4</b>	3,637 15.1	△7.9	△288	
売上原価	535	<b>575</b>	<b>567</b>	<b>98.6</b>	549	3.3	18	
売上総利益	3,120	<b>2,975</b>	<b>2,783</b>	<b>93.5</b>	3,088	△9.9	△306	
販売費・ 一般管理費	45.1 1,650	43.9 <b>1,560</b>	45.7 <b>1,530</b>	<b>98.1</b>	46.8 1,703	△10.1	△173	
販売費・ 管理費	31.6 1,155	30.4 <b>1,080</b>	31.6 <b>1,058</b>	<b>98.0</b>	28.0 1,020	3.8	39	
研究開発費計	495	<b>480</b>	<b>472</b>	<b>98.3</b>	683	△30.9	△211	
研究開発費	495	<b>480</b>	<b>472</b>	<b>98.3</b>	514	△8.2	△42	
戦略的事業投資	-	-	-	-	169	-	△169	
営業利益	40.2 1,470	39.9 <b>1,415</b>	37.4 <b>1,252</b>	<b>88.5</b>	38.1 1,385	△9.6	△133	
営業外損益	235	<b>255</b>	<b>265</b>	<b>104.0</b>	280	△5.4	△15	
経常利益	46.6 1,705	47.0 <b>1,670</b>	45.3 <b>1,518</b>	<b>90.9</b>	45.8 1,666	△8.9	△148	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,330	<b>1,330</b>	<b>1,213</b>	<b>91.2</b>	1,328	△8.6	△115	

# 前年比較および増減要因（損益計算書）



## 対前年比較

（単位：億円）



## 主な増減要因（対前年）

- **売上高**
  - 国内医療用医薬品の売上減
  - ソフルーザ®に関するRoche社からのマイルストーン収入\*の減少
- **売上原価**
  - ソフルーザ®の輸出増、品目mixによる影響
- **販売費・一般管理費**
  - **販売費・管理費**
    - ▷ 国内戦略品と中国の売上拡大による費用増
  - **研究開発費**
    - ▷ 2018年度：戦略的事業投資（169億円）
    - ▷ Cefiderocolおよびソフルーザ®のPhase 3試験の終了
- **営業外損益**
  - 2018年度：ViiV社から臨時配当金受領
- **特別損益**
  - 投資有価証券売却益
- **法人税**
  - 2018年度：研究開発投資に伴う控除額増

## 主な増減要因（対修正予想）

- **売上高**
  - 国内医療用医薬品の売上減

# 事業別売上高

JGAAP



(単位：億円)

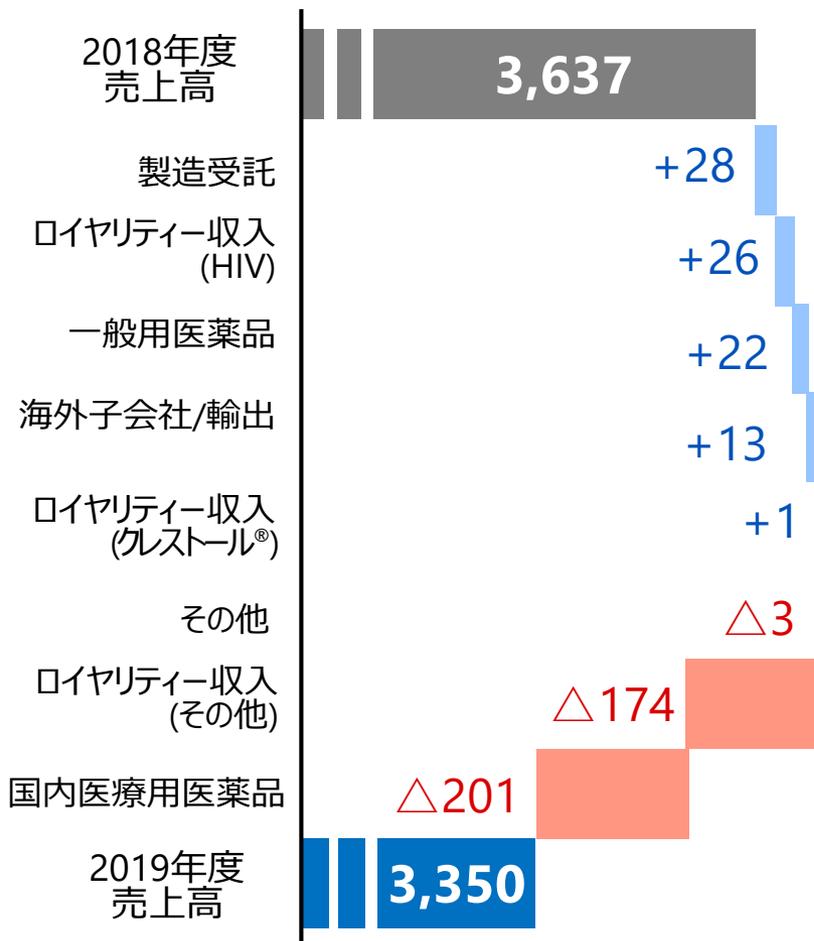
	2019年度				2018年度	対前年	
	当初予想 (5/9)	修正予想 (2/3)	通期実績	対修正予 想達成率 (%)	通期 実績	UP率 (%)	増減額
国内医療用医薬品	1,441	<b>1,291</b>	<b>1,086</b>	<b>84.1</b>	1,287	△15.6	△201
海外子会社 / 輸出	314	<b>313</b>	<b>308</b>	<b>98.1</b>	294	4.5	13
シオノギ Inc.	99	<b>102</b>	<b>101</b>	<b>99.3</b>	118	△14.4	△17
Mulpleta <sup>®</sup>	10	<b>10</b>	<b>5.4</b>	<b>54.3</b>	0.8*	-*	5
C&O	146	<b>133</b>	<b>131</b>	<b>98.5</b>	115	14.4	16
製造受託	143	<b>169</b>	<b>176</b>	<b>104.2</b>	148	19.0	28
一般用医薬品	97	<b>97</b>	<b>103</b>	<b>106.0</b>	81	26.9	22
ロイヤリティー収入	1,636	<b>1,657</b>	<b>1,656</b>	<b>99.9</b>	1,803	△8.2	△147
HIVフランチャイズ	1,265	<b>1,271</b>	<b>1,271</b>	<b>100.0</b>	1,244	2.1	26
クレストール <sup>®</sup>	220	<b>220</b>	<b>220</b>	<b>100.0</b>	220	0.3	1
その他	151	<b>166</b>	<b>165</b>	<b>98.9</b>	339	△51.4	△174
その他	24	<b>22</b>	<b>22</b>	<b>96.2</b>	25	△12.2	△3
<b>合計</b>	<b>3,655</b>	<b>3,550</b>	<b>3,350</b>	<b>94.4</b>	<b>3,637</b>	<b>△7.9</b>	<b>△288</b>

# 前年比較および増減要因（事業別売上高）



## 対前年比較

（単位：億円）



## 主な増減要因（対前年）

- **ロイヤリティー収入**
  - ソフルーザ®に関するRoche社からの収入の減少\*
  - HIVフランチャイズの売上増とThreshold期間終了による増加
- **国内医療用医薬品**
  - サインバルタ®、インチュニブ®の売上増
  - インフルエンザファミリーの売上減
- **製造受託**
  - ソフルーザ®の輸出増
- **海外子会社/輸出**
  - C&O：ラベプラゾールの売上増
  - シオノギ Inc.：Symproic®に関する一時金収入\*\*

## 主な増減要因（対修正予想）

- **国内医療用医薬品**
  - インフルエンザファミリーの売上減

# 国内医療用医薬品

	2019年度		2018年度		対前年		
	当初予想 (5/9)	修正予想 (2/3)	通期実績	対修正予想 達成率(%)	通期 実績	UP率 (%)	増減額
サインバルタ <sup>®</sup>	293	<b>273</b>	<b>262</b>	<b>96.0</b>	241	<b>8.8</b>	<b>21</b>
インチュニブ <sup>®</sup>	136	<b>106</b>	<b>106</b>	<b>100.0</b>	53	<b>100.7</b>	<b>53</b>
ビバンセ <sup>®</sup>	3.8	<b>0.5</b>	<b>0.1</b>	<b>19.9</b>	-*	-*	<b>0.1</b>
ゾフルーザ <sup>®</sup>	280	<b>180</b>	<b>4.3</b>	<b>2.4</b>	263	△ <b>98.4</b>	△ <b>259</b>
ラピアクタ <sup>®</sup>	26	<b>26</b>	<b>12</b>	<b>45.1</b>	20	△ <b>42.4</b>	△ <b>9</b>
ブライトポック <sup>®</sup>	18	<b>22</b>	<b>8.5</b>	<b>39.6</b>	12	△ <b>27.1</b>	△ <b>3</b>
戦略品 合計	757	<b>607</b>	<b>393</b>	<b>64.7</b>	589	△ <b>33.3</b>	△ <b>196</b>
オキシコンチン <sup>®</sup> 類	67	<b>64</b>	<b>61</b>	<b>94.4</b>	73	△ <b>16.9</b>	△ <b>12</b>
スインプロイク <sup>®</sup>	23	<b>23</b>	<b>22</b>	<b>96.8</b>	16	<b>39.2</b>	<b>6</b>
アシテア <sup>®</sup>	2.7	<b>2.6</b>	<b>2.8</b>	<b>108.8</b>	1.9	<b>47.5</b>	<b>1</b>
ムルプレタ <sup>®</sup>	3.3	<b>2.3</b>	<b>1.3</b>	<b>55.7</b>	1.5	△ <b>16.3</b>	△ <b>0</b>
ピレスパ <sup>®</sup>	69	<b>70</b>	<b>68</b>	<b>97.0</b>	57	<b>19.3</b>	<b>11</b>
新製品 合計	922	<b>769</b>	<b>547</b>	<b>71.2</b>	738	△ <b>25.8</b>	△ <b>191</b>
クレストール <sup>®</sup>	100	<b>95</b>	<b>89</b>	<b>93.9</b>	99	△ <b>9.9</b>	△ <b>10</b>
イルベタン <sup>®</sup> 類	49	<b>46</b>	<b>44</b>	<b>94.3</b>	54	△ <b>18.5</b>	△ <b>10</b>
その他	369	<b>381</b>	<b>406</b>	<b>106.6</b>	396	<b>2.3</b>	<b>9</b>
国内医療用医薬品	<b>1,441</b>	<b>1,291</b>	<b>1,086</b>	<b>84.1</b>	<b>1,287</b>	△ <b>15.6</b>	△ <b>201</b>

インフルエンザファミリーを除く国内医療用医薬品はほぼ修正計画通りに着地\*\*

## 2. 2019年度の取り組みと結果

## 1. 販売

- インフルエンザファミリー：
  - 3品目ともにインフルエンザの小規模な流行による影響、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による影響を大きく受けた
  - ゾフルーザ®に対する低感受性ウイルスへの医師の理解浸透は進むものの、処方増加までには至らず
- サインバルタ®：
  - 疼痛領域での伸長により、対前年実績を上回り着地
  - “慢性腰痛に対する第一選択薬”というポジショニングメッセージを訴求しきれず、修正計画は未達
- インチュニブ®：
  - 小児：新規患者市場、それを含むダイナミック市場でトップシェア獲得
  - 成人：追加適応取得、採用施設の増加により修正計画を達成（売上：小児とあわせて前年比2倍の増）
- ビバンセ®：
  - 流通管理体制の構築、発売

**新製品の売上拡大に課題が残る1年**

## 2. 投資（研究開発）

- HIV製品パテントクリフを乗り越えるため“治療パラダイムを変える注カパイプライン\*”を選定、Tetra社への追加出資
- S-600918、zuranolone、レダセムチド、S-648414等の次世代成長ドライバーの開発進展
- Cefiderocolの米国上市、欧州承認 (2020年4月)
- Xofluza®のグローバル開発進展

**成長ドライバーの拡充、海外事業の基盤構築が順調に進展**

## 3. ビジネスイノベーション

- エムスリーとの合併会社ストリーム・アイ設立
  - 新しい情報提供モデル構築の開始
- UMNファーマの完全子会社化
  - ワクチン事業への本格参入
- 中国平安保険（集団）股份有限公司との資本業務提携（基本合意）
  - 中国事業の変革
- ADHDデジタル治療製品候補 SDT-001の国内臨床試験用アプリの開発



**ヘルスケアでの新たな価値創造に向けた取り組みを積極化**

## 2019年度総括

### 達成

- 事業提携により将来のビジネスの幅を拡大
- 海外事業の基盤となるcefiderocolの欧米での承認取得
- PoC獲得品、非臨床パイプラインの充実

### 積み残した課題

- 国内事業のベストプラクティス確立
- 国内・海外での新製品拡大
- 後期パイプラインの充実

## 持続的成長を実現するための2020年度強化ポイント

### 1. 国内・海外事業：新製品による売上高の成長

- ヘルスケア戦略本部の新設・医薬事業本部の再編
  - 疾患に対するトータルケアの提案
  - グローバルで一貫したブランド戦略
  - データに基づいた戦略立案・活動の定着
- 中国での新しいビジネスモデルの構築を含めた海外事業の転換

### 2. 研究・開発：次世代成長ドライバーの研究開発加速

# 3. 2020年度 業績予想

# 国際会計基準（IFRS）の導入



## 2019年度実績のIFRS適用による変化

(単位：億円)

JGAAP		IFRS*		差異
売上高	3,350	売上収益	3,333	△16
売上原価	567	売上原価	568	1
売上総利益	2,783	売上総利益	2,765	△18
販売費・管理費	1,058	販売費・管理費	981	△78
研究開発費	472	研究開発費	479	7
		その他収益費用	8	8
営業利益	1,252	営業利益	1,314	61
		コア営業利益	1,282	
営業外損益	265			△265
特別損益	68			△68
		金融収益費用	282	282
法人税等	373	法人所得税等	372	△0
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,213	親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,223	10

## IFRS適用後のコア営業利益の定義

フルベースの営業利益から下記の非経常的な項目を調整

- 減損損失
- 有形固定資産売却益
- 事業構造再編費用
- 災害による損失
- 訴訟費用・賠償金・和解金
- その他会社が除外すべきと判断する項目

# 業績予想 (IFRS)



(単位：億円)

	2020年度予想		2019年度	対前年	
	通期	上期	実績*	UP率 (%)	増減額
売上収益	3,235	1,556	3,333	△3.0	△98
営業利益	1,103	538	1,314	△16.0	△210
コア営業利益	1,103	538	1,282	△13.9	△178
税引前利益	1,363	616	1,595	△14.6	△232
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,036	449	1,223	△15.3	△187

アライアンスに関連する一過性の減収を新製品の売上拡大で補えず、減収減益

為替レート (期中平均)	2020年度 前提	2019年度 実績
ドル	107円	108.72円
ポンド	130円	138.15円
ユーロ	120円	120.82円

# 損益計算書予想 (IFRS)



(単位：億円)

	2020年度		2019年度	対前年	
	通期 予想	上期 予想	通期実績*	UP率 (%)	増減額
売上収益	3,235 17.2	1,556 16.5	3,333 17.0	△3.0	△98
売上原価	557	257	568	△1.9	△11
売上総利益	2,678	1,299	2,765	△3.2	△87
販売費・ 一般管理費	47.6 1,539	48.0 747	43.8 1,459	5.5	80
販売・管理費	32.1 1,037	32.2 516	29.4 981	5.8	57
研究開発費	15.5 502	14.8 230	14.4 479	4.8	23
その他の収益・費用	△35	△14	8	△567.5	△43
営業利益	34.1 1,103	34.6 538	39.4 1,314	△16.0	△210
コア営業利益	34.1 1,103	34.6 538	38.5 1,282	△13.9	△178
金融収益・費用	260	78	282	△7.8	△22
税引前利益	42.1 1,363	39.6 616	47.9 1,595	△14.6	△232
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,036	449	1,223	△15.3	△187

\* JGAAPからIFRSへ変換済み  
(2019年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

# 減益予想の内訳（損益計算書、IFRS）



## 対前年比較

（単位：億円）

売上収益	△98
売上原価	△11
売上総利益	△87
販売費・管理費	+57
研究開発費	+23
その他の収益・費用	△43
営業利益	△210
コア営業利益	△178
金融収益・費用	△22
税引前利益	△232
当期利益	△187

減益要因

増益要因

## 主な増減要因（対前年）

### 売上収益（△98億円）

- 国内医療用医薬品の売上増
- 海外子会社の売上減（一時金収入含む）
- ロイヤリティー収入の減少（主にXofluza<sup>®</sup>およびクレストール<sup>®</sup>に関する一過性要因による）
- 製造受託売上の減少

### 販売費・一般管理費（+80億円）

- 販売費・管理費（+57億円）
  - ▷ 国内：戦略品、特にサインバルタ<sup>®</sup>、インチュニブ<sup>®</sup>の売上拡大に伴う費用増
  - ▷ 海外：欧州Fetcroja<sup>®</sup>のプレローンチ・販売活動費用増
  - ▷ IT投資
- 研究開発費（+23億円）
  - ▷ 注カプロジェクトを中心にR&D活動を推進

# 事業別売上収益予想 (IFRS)



(単位：億円)

	2020年度		2019年度	対前年	
	通期 予想	上期 予想	通期 実績*	UP率 (%)	増減額
国内医療用医薬品	1,239	531	1,062	16.6	177
海外子会社 / 輸出	240	113	308	△21.8	△67
シオノギ Inc.	51	26	101	△49.1	△50
C&O	119	57	131	△9.2	△12
製造受託	154	79	176	△12.2	△21
一般用医薬品	104	49	97	7.5	7
ロイヤリティー収入	1,483	778	1,669	△11.1	△186
HIVフランチャイズ	1,263	642	1,281	△1.4	△18
クレストール®	169	111	223	△24.4	△54
その他	52	25	165	△68.7	△113
その他	13	7	22	△39.0	△8
<b>合計</b>	<b>3,235</b>	<b>1,556</b>	<b>3,333</b>	<b>△3.0</b>	<b>△98</b>

# 国内医療用医薬品売上収益予想 (IFRS)



(単位：億円)

	2020年度		2019年度	対前年	
	通期 予想	上期 予想	通期 実績*	UP率 (%)	増減額
サインバルタ <sup>®</sup>	286	139	262	9.1	24
インチュニブ <sup>®</sup>	167	68	103	61.1	63
ビバンセ <sup>®</sup>	8	2	0	-**	8
感染症薬	265	71	161	65.0	104
オキシコンチン <sup>®</sup> 類	56	29	59	△5.4	△3
スインプロイク <sup>®</sup>	29	13	21	37.1	8
アシテア <sup>®</sup>	3	2	3	27.6	1
ムルプレタ <sup>®</sup>	1	1	1	△3.0	△0
ピレスパ <sup>®</sup>	49	29	66	△25.6	△17
その他	375	177	387	△2.9	△11
クレストール <sup>®</sup>	83	42	86	△4.4	△4
イルベタン <sup>®</sup> 類	37	18	43	△12.5	△5
<b>国内医療用医薬品</b>	<b>1,239</b>	<b>531</b>	<b>1,062</b>	<b>16.6</b>	<b>177</b>

➤ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、各感染症薬の正確な見積りが困難であるため、感染症薬の予想は下記製品の合計額を計上

- ソフルーザ<sup>®</sup>
- フィニバックス<sup>®</sup>
- セフテム<sup>®</sup>
- バクタ<sup>®</sup>
- イソジン<sup>®</sup>
- ラピアクタ<sup>®</sup>
- フルマリン<sup>®</sup>
- シオマリン<sup>®</sup>
- フラジール<sup>®</sup>
- 新型コロナウイルス検査キット\*\*\*
- ブライトポック<sup>®</sup> Flu・Neo
- フロモックス<sup>®</sup>
- バンコマイシン
- フルコナゾール<sup>®</sup>

\* JGAAPからIFRSへ変換済み  
(2019年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

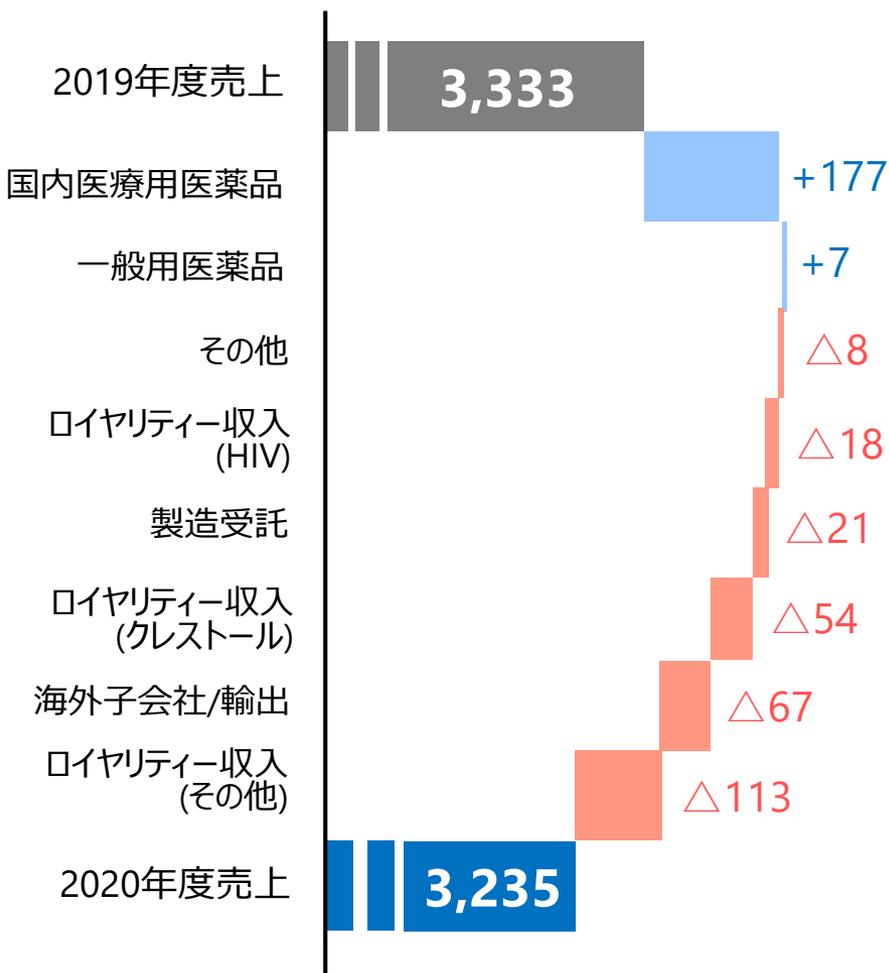
\*\* 2019年12月発売    \*\*\* 発売前、臨床データ集積中

# 減収予想の内訳（事業別・製品別売上収益）



## 対前年比較

（単位：億円）



## 主な増減要因（対前年）

- 国内医療用医薬品（+177億円）**
  - 感染症薬、ADHDファミリー、サインバルタ®の売上増
- 海外子会社/輸出（△67億円）**
  - シオノギInc.：Symproic®の販売提携に伴う一時金（2019年度）
  - C&O：主力製品の国家保険未収載の影響による売上減
- 製造受託（△21億円）**
  - ドルテグラビル原薬の製造法改良を控え、供給量が一時的に減少
- ロイヤリティー収入（△186億）**
  - Xofluza®に関するRoche社からのマイルストーン収入（2019年度）
  - 会計基準の変更による、クレストール®に関するAstraZeneca社からのロイヤリティー収入の計上タイミングの変更（1Qのずれの解消）
  - 為替の影響によるHIVフランチャイズに関するロイヤリティー収入の減少

(単位：億円)

	2020年度予想		2019年度	対前年	
	通期	上期	実績*	UP率 (%)	増減額
売上収益	3,235	1,556	3,333	△3.0	△98
営業利益	1,103	538	1,314	△16.0	△210
コア営業利益	1,103	538	1,282	△13.9	△178
税引前利益	1,363	616	1,595	△14.6	△232
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,036	449	1,223	△15.3	△187

アライアンスに関連する一過性の減収を新製品の売上拡大で補えず、減収減益

為替レート (期中平均)	2020年度 前提	2019年度 実績
ドル	107円	108.72円
ポンド	130円	138.15円
ユーロ	120円	120.82円

\* JGAAPからIFRSへ変換済み  
(2019年度実績のIFRS組替数値は監査未了の暫定値)

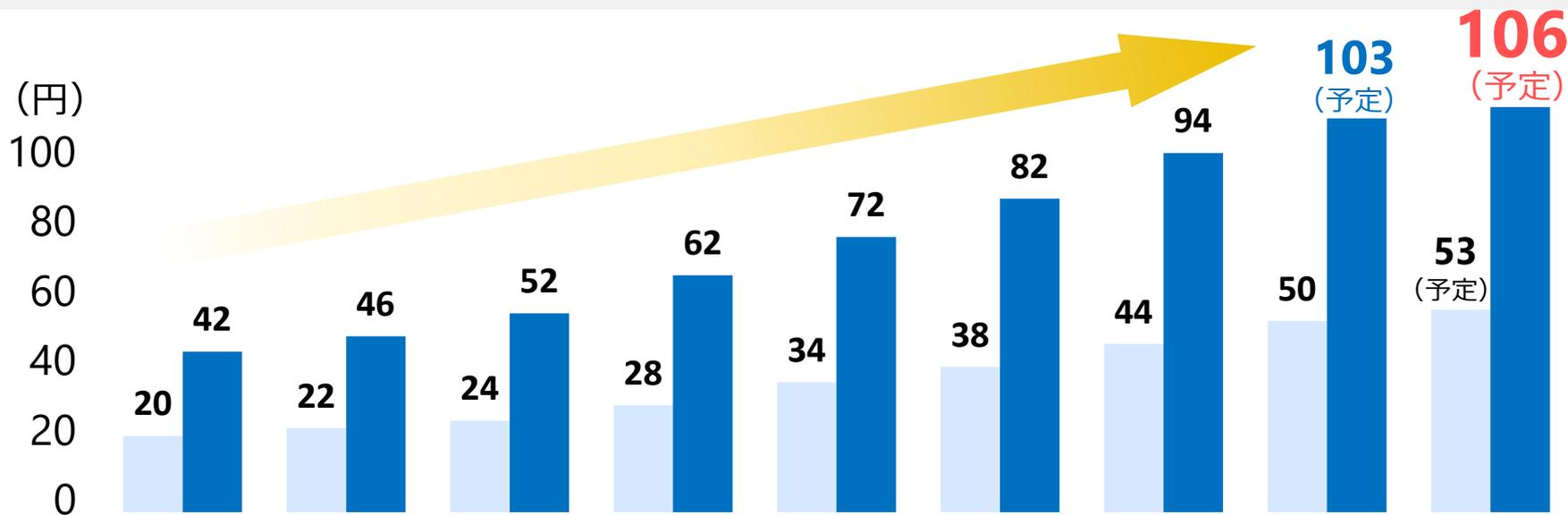
## 4. 株主還元

# 機動的な資本政策



## 成長をともに実感していただける株主還元政策

- 自己株式の取得・消却、政策保有株の持合い削減も含め、資本効率を向上
- 2020年度も**9期連続の増配を予定**



年度		12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己株式	取得額	-	-	300億円	-	350億円	294億円	500億円	500億円	
	消却数	-	-	-	-	2,200万株	500万株	735万株	520万株*	
DOE (%)		3.7	3.5	3.7	4.1	4.5	4.6	4.6	4.7 (予定)	4.0 以上**
ROE (%)		17.5	9.2	9.4	13.6	16.3	19.4	20.9	18.0	12.5 以上**



# Appendix

# KPI - 2019年度の結果 -

JGAAP



## 成長性 KPI

	2020年度 目標	2019年度 目標*	2019年度 実績	2018年度 実績
新製品**売上	2,000億円	1,006億円	<b>629億円</b>	831億円
経常利益	1,500億円	1,705億円	<b>1,518億円</b>	1,666億円
ROIC***	13.5%以上	15.0%以上	<b>13.8%</b>	16.5%
CCC****	7.0ヵ月	7.6ヶ月以下	<b>7.7ヵ月</b>	8.9ヵ月
自社創薬比率	50%以上	50%以上	<b>67%</b>	69%
ROE	15.0%以上	18.0%以上	<b>18.0%</b>	20.9%
DOE	4.0%以上	4.3%以上	<b>4.7%</b> (予定)	4.6%

## 効率性 KPI

## 株主還元 KPI



# 2020年度通期予想について (IFRS)



## ● 売上収益 (3,333→3,235)

(単位：億円)

前期実績*	Symproic®の販売提携に伴う一時金 上期実績 1,632	Roche社からのマイルストーン収入 下期実績 1,701	△98
	当期予想 1,556	下期予想 1,679	
当期予想 1,556	下期予想 1,679	新製品の売上拡大 クレストール®ロイヤリティーの計上タイミングの変更	

## ● コア営業利益 (1,282→1,103)

## ● 税引き前利益 (1,595→1,363)

## ● 当期利益 (1,223→1,036)

親会社の所有者に帰属する

前期実績*	上期実績 633	下期実績 649
	当期予想 538	下期予想 565

前期実績*	上期実績 711	下期実績 885
	当期予想 616	下期予想 747

前期実績*	上期実績 543	下期実績 680
	当期予想 449	下期予想 587

研究開発費、販売・管理費の増加

△178

△232

△187

# 2019年度計画修正の変遷 (JGAAP)



(単位：億円)

	2019年度			2018年度
	当初予想 (5/9)	修正予想 (10/30)	修正予想 (2/3)	実績
売上高	3,655	3,670	3,550	3,637
営業利益	1,470	1,500	1,415	1,385
経常利益	1,705	1,715	1,670	1,666
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,330	1,350	1,330	1,328

## 当初予想 (5/9)

新製品の売上拡大によりRoche社からのマイルストーン収入の減少を補い、増収増益を達成

## 修正予想 (10/30)

上期の堅調な進捗および成長投資の優先度の見直しを反映し上方修正

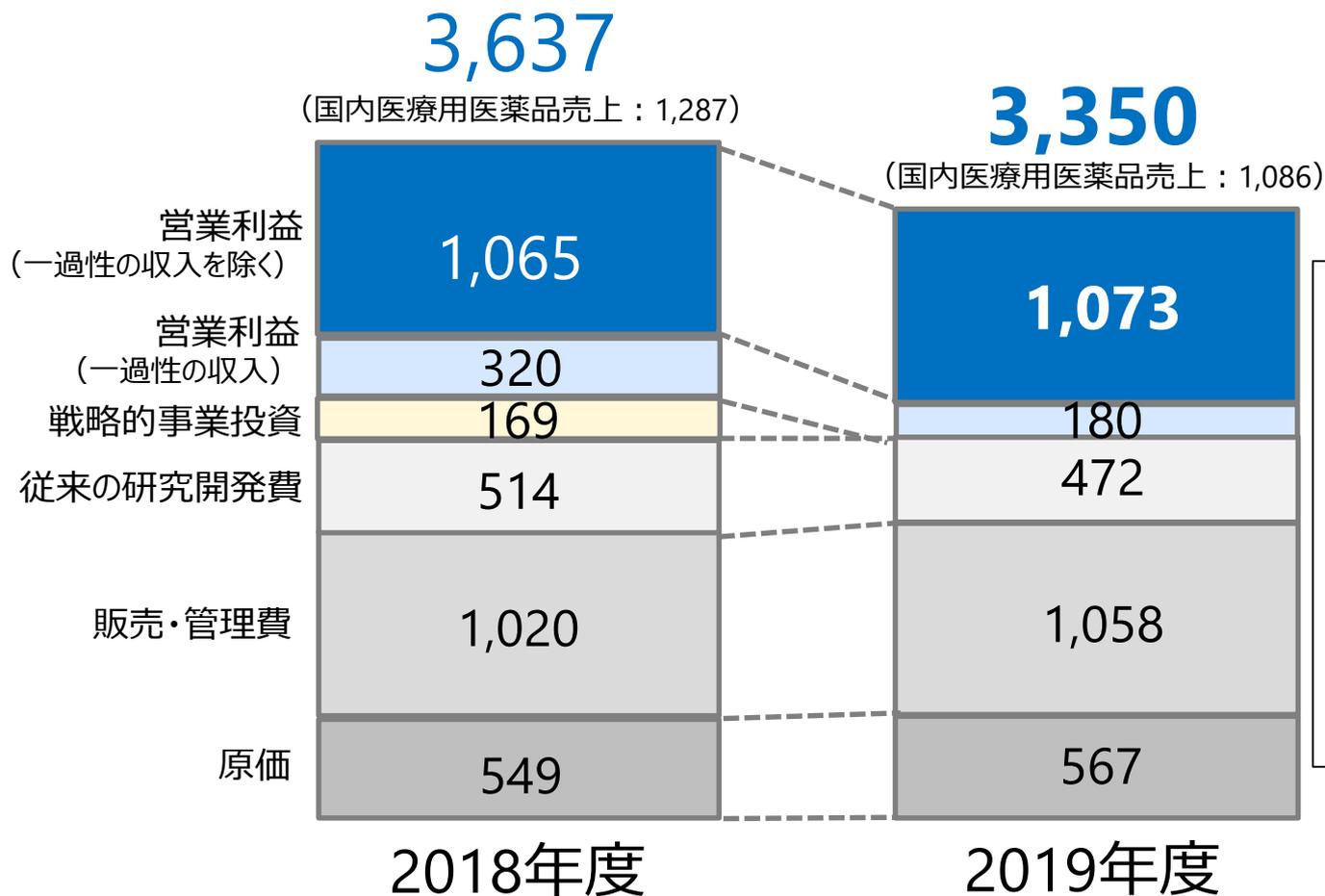
## 修正予想 (2/3)

国内事業の進捗遅れを反映し下方修正  
成長投資を推進しながら過去最高益を達成

# 一過性要因の対前年同期比較 (JGAAP)



売上高 (単位：億円)



## <主な一過性要因>

2018年度：

- Roche社からのマイルストーン収入
- Purdue社からの一時金収入
- 戦略的事業投資

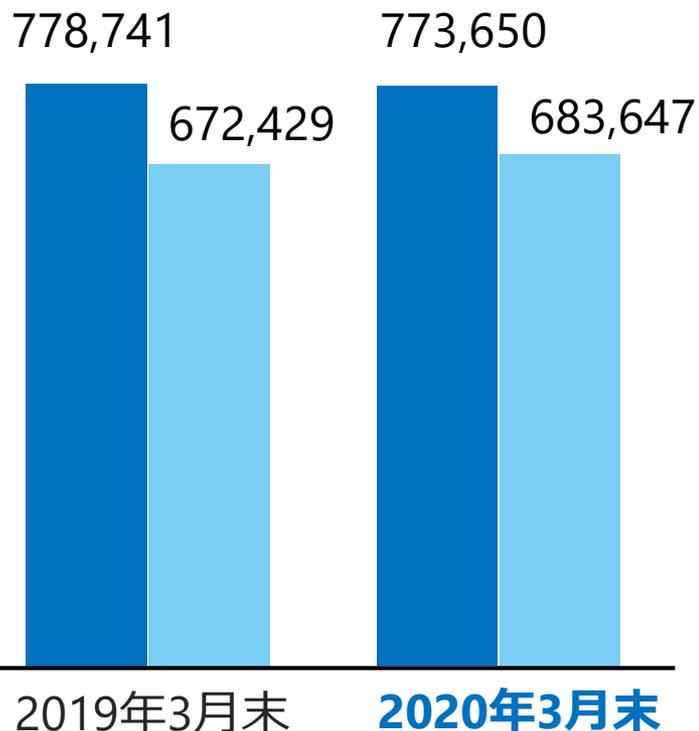
2019年度：

- Roche社からのマイルストーン収入
- HIVフランチャイズロイヤリティー収入のthreshold設定期間の終了
- BDSI\*社からの一時金収入

# 財政状態（連結、JGAAP）



■ 資産 ■ 純資産 (単位：百万円)



単位：百万円		2019年 3月末	2020年 3月末	増減額
資産	流動資産	461,743	485,932	24,188
	固定資産	316,997	287,717	△29,279
負債	流動負債	89,107	72,653	△16,453
	固定負債	17,203	17,349	145
純資産	株主資本	652,371	694,489	42,117
	その他	20,058	△10,841	△30,900

	2019年 3月末	2020年 3月末
自己資本比率	85.7%	<b>88.3%</b>

# 2019/2020シーズンの変異株検出状況



## ● 国内 国立感染症研究所 抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス結果（2020年4月30日時点）

➤ ソフルーザ®感受性低下株の結果を抜粋

	A(H1N1)pdm09	A(H3N2)	B
耐性株数 (%)	1* (0.14%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
解析株数	738	49	27

\* WHOの暫定基準に準じ、薬剤感受性試験において3倍以上の感受性低下が確認された場合に感受性低下ウイルスと判定、薬剤未投与例

## ● 国内 特定使用成績調査結果（新潟大学国際保健学教室にて調査：2020年4月28日時点）

2019/2020シーズン ソフルーザ®感受性低下株調査 PA変異ありの患者割合

➤ 薬剤投与前株の結果を抜粋

	A(H1N1)pdm09	A(H3N2)	A(H1N1)pdm09 and A(H3N2)	B	A and B
耐性株数 (%)	0 (0.0%)	0	1*	0 (0.0%)	0
解析株数	277	2	2	53	2

\*A(H1N1)pdm09及びA(H3N2)の混合感染症例。A(H1N1)pdm09はシーケンス解析できず、A(H3N2)でI38Tアミノ酸変異を確認

## ● グローバル調査結果（2020年2月28日 WHO報告より）

➤ ソフルーザ®感受性低下株の結果を抜粋

	A(H1N1)pdm09	A(H3N2)	B
耐性株数 (%)	1* (0.07%)	1** (0.1%)	0 (0.0%)
解析株数	1,355	1,012	930

\* 薬剤未投与例、E23Kを検出 \*\* 薬剤投与前後の情報不明、I38Mアミノ酸変異

**本剤への感受性が低下した変異株はわずかしか認められず、蔓延は確認されなかった**

# ヘルスケア戦略本部の新設



## 必要な製品・情報をグローバルで効果的に届ける仕組み

➤ バリューチェーン横断・顧客視点・エビデンス重視・データ駆動

研究・開発

上市

ポートフォリオ戦略

研究・開発から一貫した製品価値の構築

ニュープロダクト  
プランニング部

疾患戦略・製品戦略

疾患戦略部

エビデンス構築・医療経済的評価

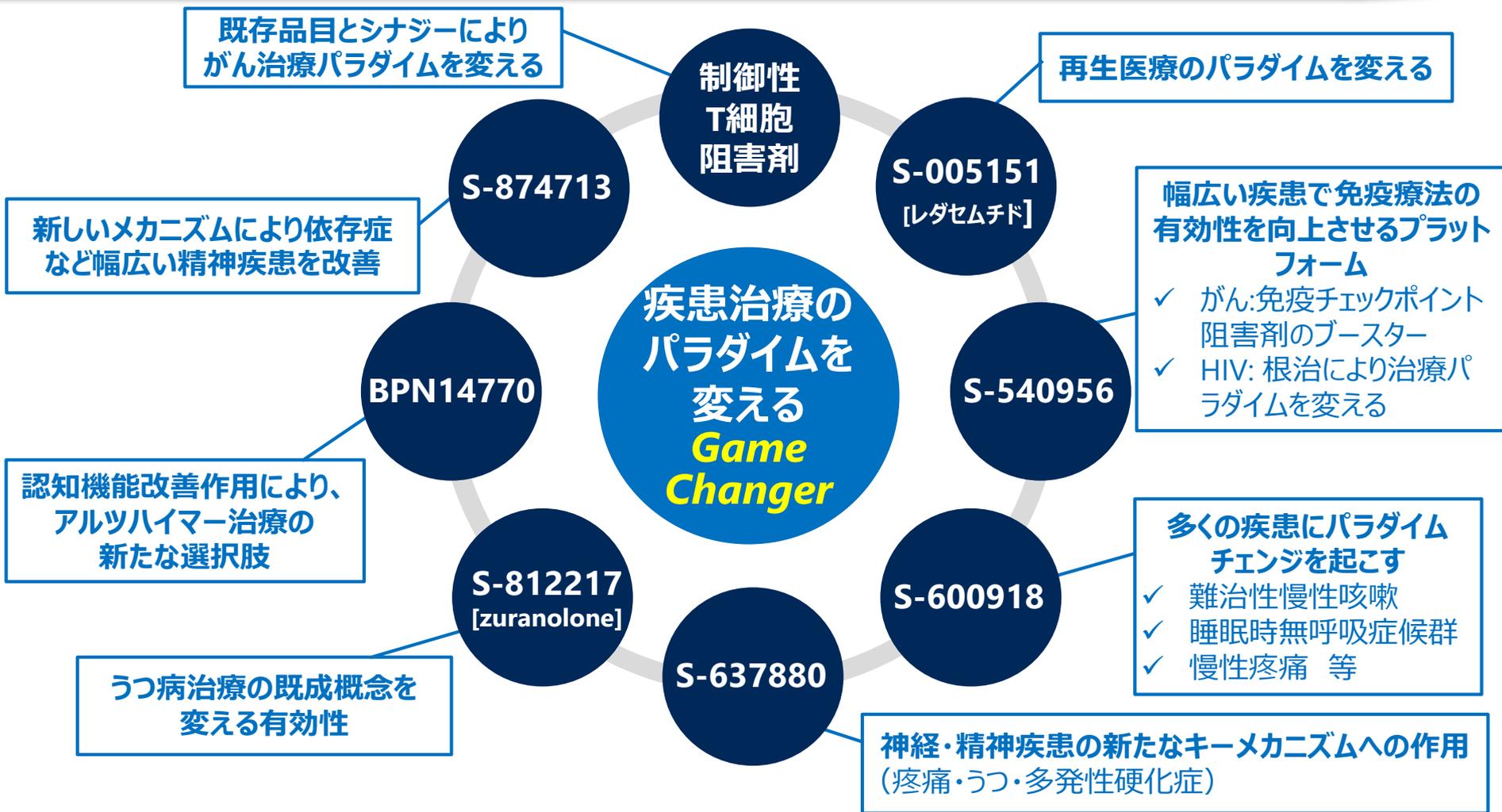
メディカルアフェアーズ部

データ解析, モデリング, シミュレーション

データサイエンス室

CSR\*活動（予防・疾患啓発・適正使用推進）

CSR推進部



## アンメットメディカルニーズが高い疾患の既成概念を打破

# パイプラインの状況 (2020年5月11日現在)



## 国内開発



### 非臨床\*

- S-872600  
インフルエンザ予防ワクチン
- S-874713  
各種精神疾患
- BPN14770  
認知機能改善
- S-872881  
アルツハイマー型認知症
- S-109802  
脳卒中後上肢・下肢痙縮
- 制御性T細胞阻害剤  
固形がん
- S-540956  
核酸アジュバント
- S-309309  
肥満症
- S-723595  
NASH

- S-005151 [レダセムチド]  
脳梗塞
- S-005151 [レダセムチド]  
表皮水疱症
- SDT-001  
ADHD患者の不注意症状 (小児)
- S-237648  
肥満症
- S-588410  
膀胱がん
- SR-0379  
皮膚潰瘍
- ADR-001\*\*  
非代償性肝硬変

- 感染症
- 疼痛・神経
- 新たな成長領域

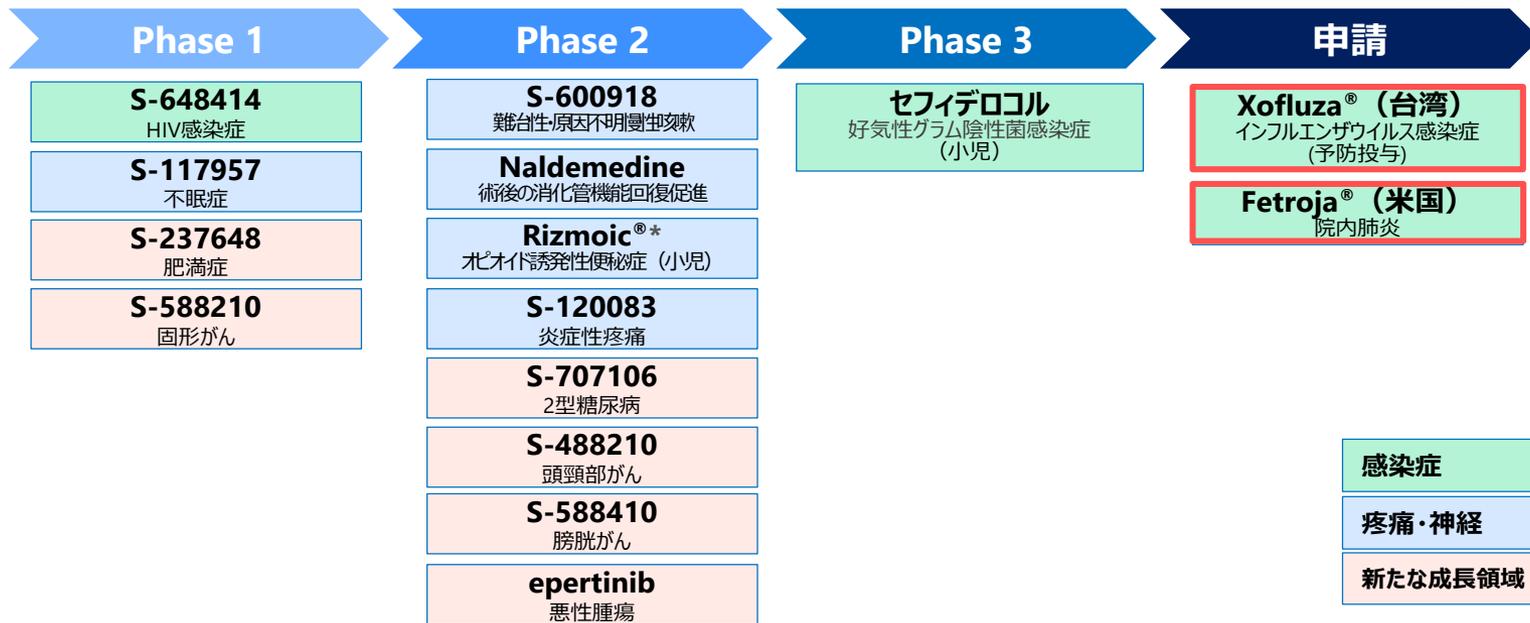
ステージ変更 (2020年2月3日からの変更点)

zuranolone (うつ病・うつ状態) : Phase 2開始  
S-600918 (睡眠時無呼吸症候群) : Phase 2a開始

# パイプラインの状況 (2020年5月11日現在)



## 海外開発

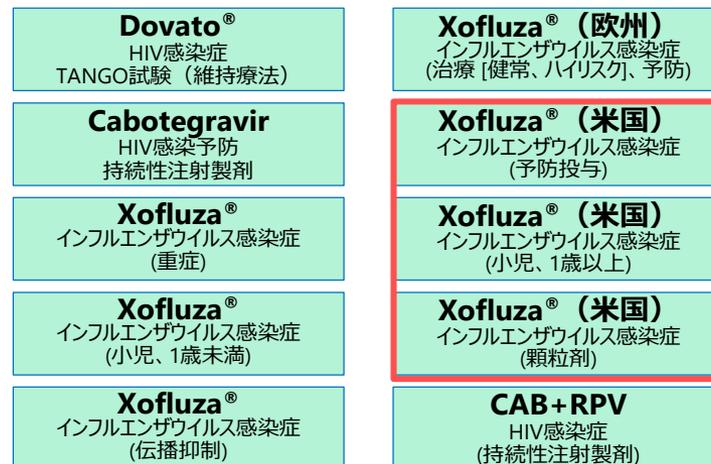


- 感染症
- 疼痛・神経
- 新たな成長領域

## アウトライゼンス

ステージ変更 (2020年2月3日からの変更点)

Fetroja® (院内肺炎) : Phase 3→申請 (米国)  
 Fetroja® (好気性グラム陰性菌感染症) : 申請→承認 (欧州)  
 Xofluza® (インフルエンザウイルス感染症) : 申請 (台湾)、追加適応申請 (米国)  
 GSK3342830 (多剤耐性グラム陰性菌感染症) : 開発中止



# 2020年度の開発品予定



Phase	パイプライン	適応	マイルストーン	✓ : 達成
申請～承認	Fetroja® (cefiderocol)	グラム陰性菌による院内肺炎	米国：追加適応承認	
	Fetroja® (cefiderocol)	好気性グラム陰性菌感染症	欧州：承認 ✓	
	ゾフルーザ® 顆粒剤	インフルエンザウイルス感染症 (小児、体重20kg未満)	日本：追加適応承認	
	ゾフルーザ®	インフルエンザウイルス感染症 (予防)	日本：追加適応承認	
	オキシコンチン® TR	慢性疼痛における鎮痛	日本：追加適応承認	
	サインバルタ®	うつ病・うつ状態 (小児)	日本：申請	
Phase 1～3	S-637880	神経障害性疼痛	日本：Phase 1反復投与試験完了	
	S-600918/S-637880	神経障害性腰痛	日本：Phase 2 (PoC試験)開始	
	S-648414	HIV感染症	米国：Phase 2 (PoC試験)開始	
	S-770108	特発性肺線維症	英国：肺沈着試験開始	
	S-540956	HIV感染症、がん	Phase 1試験開始 (地域未定)	
	S-874713	各種精神疾患	日本：Phase 1試験開始	
	BPN14770	アルツハイマー型認知症	日本：Phase 1試験開始	
	S-723595	非アルコール性脂肪肝炎	日本：Phase 1試験開始	

# 新製品の定義（中期経営計画SGS2020のupdate改変）



## 疼痛 神経

- サインバルタ®
- オキシドン乱用防止製剤、オキノーム®、オキファスト®
- ナルデメジン\*
- インチュニブ®、ビバンセ®

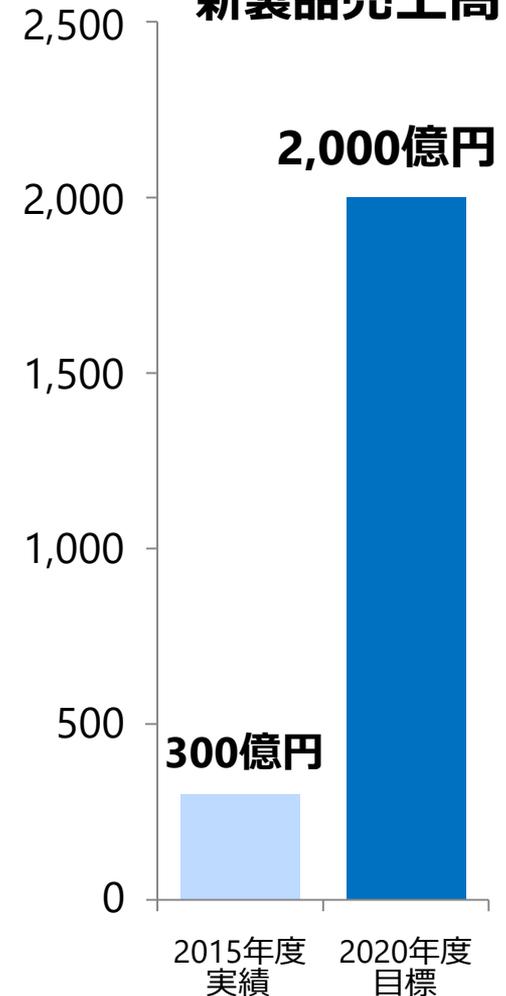
## 感染症

- ゾフルーザ® /Xofluza™
- セフィデロコル
- ラピアクタ®、インフルエンザ診断キット

## その他

- ピレスパ®
- ムルプレタ®
- アシテア®
- Osphena®（Senshio®）

## 新製品売上高



# 将来の見通しに関する注意事項



- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論・結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。  
リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保険関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 承認済みの製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- 本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。